

欲しくなる、贈りたくなる物を目指して

kinoshiru 漆作家

# 斎藤 奈津美 さん

さいとう・なつみ 36歳 秋葉



昭和60年生まれ。青森県弘前市出身。楽観的な性格。尊敬する人は漆器製作の師、富士原文隆さん。鶯の尾酒造の吟醸生酒「竹葉」を冷やで飲むのがお気に入り。趣味は飼育するトカゲと2匹のカメの観賞、ドライブ。好きな言葉は「一念岩をも通す」。

セーラー万年筆(株)が昨年10月から販売している「伝統漆芸麗岩手 樹水塗万年筆」の漆塗りを手掛けているのが漆作家の斎藤奈津美さん。「納品した100本に追加で20本のオーダーが入り、好評と聞いてほっとしている」と胸をなで下ろし、評価を喜ぶ。

青森県弘前市に生まれ、津軽塗職人の父の下、当たり前のように漆器に囲まれて育つ。当時は乾く前の漆の独特な匂いが苦手で「違う道に進みたかった」と山形の大学に進学し、就職を機に上京する。手助けをしてもらった上司たちの30・40歳の記念に、漆製のペンなどを贈りたいと探すも御眼鏡にかなうものに巡り合えず、妥協した物を贈っては後悔していた。この経験から、器以外の漆製品で市場に出回っている種類の少なさに気付き、無いなら自分で作ろうと一念発起。東京での仕事を辞め、安代漆工技術センターを卒業し、小物作りに力を入れ始めた。



独自の透かし技法「みずがみ」で磨き上げる樹水塗

忘れられない出来事は、盛岡市で開いた販売会。一人の少女が漆のペンを手に取り、好きな歌手への贈り物にしますと笑顔で買って行った。その笑顔を「昔の自分の思いを叶えることができた気がして、本当にうれしかった」と心に刻み、今も物作りの原動力にする。

安比塗の堅牢さを生かしつつ、透き通るような本市の清流をイメージした独自技法「樹水塗」の完成は、手に取った人の喜ぶ顔を願って磨き続けた技術の成果。「これからも自分が欲しい・人に贈りたいと思える漆製品を作り続けたい」と妥協しない物作りを誓い、買い手の笑顔のために励む。

## 【広告】

いぼ、癌、免疫系等  
コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ  
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります  
漢方のあさひ薬局 西根中学校前店  
公認スポーツファーマシスト 国際中医専門相談員 認定実務実習指導薬剤師 薬剤師 斎藤 貴将  
八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記  
▽八幡平エンジョイ雪合戦大会を取材全体を見て指示する人、速球や壁裏に隠れる人を狙う山なりの投球など戦略が重要で面白かったです。家族の応援も多く、コントロール自慢の野球少年や良いところを見せようと張り切るお父さんなど、寒いながらも温かな大会でした。でも雪玉は痛そうでした。(吾)  
▽北京五輪を最後の五輪と位置づけ努力を続けた38歳のベテランの永井選手。家が近所なので親戚のお兄さんのような存在で、努力している姿を間近で見ているので、念願のメダル獲得に胸が熱くなりました。永井選手のような熱いパッションを持つて取材に励みたいです。(雅)

※広報はちまんだい3月3日号(No321)の印刷経費は1部77.44円、発行部数は9,858部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、(株)総合広告社(☎019-626-3370)まで。